

第5学年*組 図画工作科学習指導案

指導者 生井澤 克江

1 題材名 よく見て 感じて 話し合おう

2 題材の目標

○親しみのある美術作品に関心をもち、自分の感覚や経験と重ね合わせながら、自分らしい見方や感じ方で味わおうとする。 (造形への関心・意欲・態度)

○感じたことを話し合ったり、文章に表したりしながら、形や色などの特徴をとらえ、親しみのある美術作品のよさや美しさを感じ取ることができる。 (鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、第5学年及び第6学年の内容「B鑑賞」(1)ア「自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること。」ならびに、(1)イ「感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表現の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。」を受けて、作品をよく見て、作品の中から見付けたことや感じたこと、想像したことなどを友人と話し合うことで、自分や友人の見方や考え方、発想のおもしろさや楽しさを味わう活動である。ここでは、鑑賞の楽しさを味わうとともに、形や色などの特徴から感じたことや自分のイメージなどについて、根拠を明確にして友人と話し合いながら、見方や感じ方を深められるようにしたい。

(2) 児童の実態

鑑賞活動に関する意識調査から、本学級の児童は、鑑賞活動が好きな児童が多いことが分かる。その一方で、作品を見て感じたことを言葉で表現して伝えることが苦手だと感じている児童が半数近くいる。児童の活動からも、自分で感じたことを表現する語彙が少なく、うまく表現することができない様子が見られる。また、作品を鑑賞するときに、色や形など造形的な特徴に注目している児童が多いが、想像を広げて作品を見ている児童が少ないと分かる。本題材では、様々な視点で作品を鑑賞し、感じたことや考えたことを根拠を明確にして話し合う活動を通して、形や色などの造形的な特徴をとらえ、作品のよさや美しさを感じ取る力を育てていきたい。

鑑賞活動に関する意識調査

(平成26年*月*日 調査人数 36人)

①作品を鑑賞することは好きですか。	
好き 21人	どちらかといえば好き 9人
どちらかといえばくらい 5人	くらい 1人
②作品を見て感じたことを言葉で表現して伝えることはできますか。	
できる 9人	どちらかといふとできる 11人
どちらかといふとできない 14人	できない 2人
③どんなところに注目して作品を鑑賞していますか。(複数回答)	
工夫されているところ 26人	色 26人
形 24人	どんなものが描かれているか 22人
まねしたいところを見つける 18人	作者の気持ちを想像する 10人
作品から物語を想像する 7人	

(3) 指導観

これらのことと踏まえ、本題材では、「作品に何が描かれているか」、「作品の中で何が起こっているか」、「なぜそう思ったのか」などと考えながら、じっくりと作品を鑑賞する時間を設定する。そして、友人と感じたことや思ったことを根拠を明確にしながら話したり、話し合ったりしながら、見方や感じ方を深めていきたい。また、作品に描かれたストーリーや作品に込められた作者の意図を想像することで、鑑賞する楽しさを味わえるようにしたいと考える。

4 題材の評価規準

観点	造形への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
評価規準	親しみのある美術作品に関心をもち、自分の感覚や経験と重ね合わせながら、自分らしい見方や感じ方で味わおうとしている。	感じたことを話し合ったり、文章に表したりしながら、形や色などの特徴を捉え、親しみのある美術作品のよさや美しさを感じ取っている。

5 指導と評価の計画（2時間扱い）

時	学習活動	評価規準（評価方法）
1 (本時)	・美術作品を見て、感じたことや思ったことを話し合い、作品のよさや美しさを感じ取る。	・親しみのある美術作品に関心をもち、自分の感覚や経験と重ね合わせながら、自分らしい見方や感じ方で味わおうとしている。 (観察)
2	・アートレポーターになり、作品のよさや美しさが伝わるように工夫して紹介し合う。	・感じたことを話し合ったり、文章に表したりしながら、形や色などの特徴をとらえ、親しみのある美術作品のよさや美しさを感じ取っている。 (観察・ワークシート)

6 本時の学習

(1) 目標

親しみのある美術作品に関心をもち、自分の感覚や経験と重ね合わせたりしながら、自分らしい見方や感じ方で味わう。

(2) 準備・資料

作品資料「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」（掲示用、児童用）、ワークシート、鑑賞語彙集、鑑賞すごろくゲーム、さいころ

(3) 展開

学習内容・活動	指導上の留意点・評価
1 本時の学習課題をつかむ。 色や形から想像して、感じたことや考えたことを話し合い、作品のよさや美しさを見付けよう。	・学習課題と学習方法を確かめることにより、活動の見通しがもてるようになる。 ・次時にはアートレポーターになって作品を紹介することを知らせ、目的意識をもって本時の学習に取り組めるようになる。
2 作品を鑑賞する。 (1) 気付いたことや感じたこと、想像したことなどをワークシートに記入する。	・個人で鑑賞する時間を十分に確保する。 ・ワークシートに記入できない児童には、語彙表を活用するように助言する。

(2) 「鑑賞すごろく」をしながら、作品を鑑賞して、思ったことや考えたことをグループで話し合う。

- ・迫力のある作品だと思います。それは、波が力強く描かれているからです。
- ・船にしがみついている人がいます。船から落ちないように必死なのだと思います。
- ・波の音とかすかに助けをよぶ声が聞こえてきそうです。
- ・波の色が濃い青や薄い青で表現されていていいなと思いました。そこから、波の荒々しさが感じられます。
- ・波の形が人の手のようだと思いました。そこから、今にもおそいかかってきそうな感じがしました。
- ・富士山に雪が積もっているから、季節は冬だと思います。
- ・波のしぶきが、富士山に降る雪に見えます。

(3) グループで話し合って、新たに気付いたことをワークシートにまとめる。

(4) 感じたことや思ったことを全体で話し合う。

3 本時の振り返り、次時の活動を知る。

- ・グループでの話合いに自信をもって臨めるように、色や形に着目したり想像を広げたりしている意見には、シールを貼って賞賛する。
- ・ゲーム的な活動を取り入れることで、楽しく自由な雰囲気で話合いができるようにする。
- ・多様な意見の交流ができるように男女混合の4人グループをつくる。
- ・意見を発表したら、どうしてそう思ったのか、理由も説明するように促す。
- ・多様な感じ方があってよいことを伝え、互いの意見を認め合えるようにする。
- ・友人の意見を聞くことで、他者の見方や感じ方に共感したり、自分の見方や感じ方との違いを感じたりしながら、自分らしい見方や感じ方を広げられるようにする。

④親しみのある美術作品に関心をもち、自分の感覚や経験と重ね合わせながら、自分らしい見方や感じ方で味わおうとしている。

(観察・ワークシート)

- ・自分のイメージを言葉で表現できずに、意欲がもてない児童には、語彙表や話型を活用するように促すことで、意欲を喚起する。
- ・友人と話し合う前の意見と区別して記入することで、話合いの前後でのイメージの変化などに気付けるようにする。
- ・「形」、「色」、「イメージ」について、よい気付きがあった児童を意図的に指名し、全体で共有できるようにする。
- ・「形」、「色」、「イメージ」について、今後の鑑賞活動においても視点として意識できるように言葉掛けをする。
- ・友人の意見を聞くことで、多様な見方や感じ方があることのおもしろさが感じられるようにする。
- ・友人と意見交換を通して、見方や感じ方が深まったことに気付かせるとともに、鑑賞活動の楽しさについて児童の言葉を生かしながらまとめる。